

群馬県営早川貯水池土地改良事業

緊急防災工事計画書

(ため池改修)

群馬県

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	2
第1節 地 域	2
第2節 地 籍	2
第3章 現 況	3
第1節 気 象	3
1 一般気象	3
2 特殊気象	4
第2節 土地状況	5
1 地形、土壌	5
2 土地利用の状況	6
3 土地所有の状況	6
第3節 水利状況	7
1 用水状況	7
2 排水状況	10
3 河川状況	10
第4節 道路概況	11
1 道路概況	11
第5節 地域農業の概況	11
1 産業別就業人口	11
2 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに 主副業別農家数	11
3 動力農機具及び主要家畜頭数	11
4 主要作物作付け状況	12
5 農業の動向	13
第6節 地域環境の概況	14
第4章 一般計画	15
第1節 事業計画の要旨	15
1 要 旨	15
2 事業別面積	16
第2節 営農計画及び土地利用計画	17
1 営農計画の概要	17
2 土地利用区分	17
3 作付方式	18
4 生産計画	19
第3節 用水計画	20
1 計画基準年	20

2 計画かんがい方式	20
3 計画用水系統	20
4 計画用水量	20
5 水源計画	21
第4節 排水計画	22
1 計画基準雨量	22
2 計画排水方式	22
3 計画排水系統	22
第5節 道路計画	23
第6節 洪水調節計画	23
第7節 農用地整備計画	23
第8節 老朽ため池改修計画	23
1 洪水吐改修計画	23
2 堤体補強計画	24
3 取水施設改修計画	24
4 洪水吐施設改修計画	24
第5章 主要工事計画	25
第1節 用水施設	25
第2節 排水施設	25
第3節 道路及び索道	25
第4節 洪水調節施設	25
第5節 農用地整備施設	25
第6節 老朽ため池改修施設	25
1 貯水池	25
2 堤体補強施設	25
第6章 附帯工事計画	26
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	26
第8章 環境との調和への配慮	26
第9章 換地計画の概要	27
第10章 事業費の総額及び内訳	28
第11章 効 用	28
第12章 関連する事業	29
第13章 現況・計画図面	29

第1章 目 的

早川貯水池は、桐生市とみどり市の境界に位置し、付近には緩やかな丘陵地が広がる。早川をせき止めた貯水により、桐生市、みどり市、伊勢崎市に位置する田畑へ灌漑している。

早川貯水池は昭和16年に竣工し、その後昭和53年度に洪水吐、底樋及び堤体波返し護岸の改修、平成14～16年度に取水設備及び堤体上流斜面保護の改修が行われ、現在に至っている。令和2年度に実施された豪雨検討において、現行基準に沿って早川貯水池を「ダム」とした場合、最新の降雨データを用いて本業務により設計洪水量を算定した結果 $Q=89.0\text{m}^3/\text{s}$ となり、現況の設計洪水量 $61.3\text{m}^3/\text{s}$ を超過している。現洪水吐での越流水深 $H=0.78\text{m}$ より必要な非越流部天端高を算出するとEL. 226.38となる。一方、現堤体の非越流天端高がEL. 225.86であるため、天端高が52 cm不足することが判明した。

早川貯水池下流には集落が存在し、被害想定区域内には人家が含まれていることから、本貯水池が決壊した場合には、営農に対する被害はもちろん、人命、財産、地域の経済活動にも多大な影響が生じることが想定される。そのため、早川貯水池地区において、豪雨時等の安全性確保に係る対策を行う必要がある。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地 域

(第 1 表)

事 業 名	地 域
農村地域防災減災事業	群馬県桐生市, みどり市

第 2 節 地 積

(令和7年8月現在) (第 2 表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農村地域防災 減災事業	桐生市 みどり市 伊勢崎市	66.9	286.1				353.0	
合 計							353.0	

第3章 現 況

第1節 気 象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	前橋地方気象台	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	S62年～R6年	4月～9月	10月～3月		
降 水 量	平 均 (mm)	928.8mm	325.2mm	1,254.0mm	
	基準年 (mm)	422.0mm	402.8mm	824.8mm	S35年
降水日数	平 均 (日)	64日	33日	97日	
	基準年 (日)	34日	47日	81日	S35年

※平均気温、根雪期間、無霜期間、最多風向及び最大風速については、主要計画に影響しないため省略する。

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
前橋観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
M30年～R6年																
最大日雨量 (mm)	357.4	S22.9.15	1/300	262.4	S30.8.6	1/220	233.5	R1.10.12	1/85	201.0	H11.8.14	1/40	180.0	S33.9.26	1/25	
最大時間雨量 (mm)	114.5	H9.9.11	1/65	94.0	S30.8.16	1/25	82.0	S52.7.26	1/15	81.4	S37.8.28	1/14	81.4	S36.8.18	1/14	
最大4時間雨量 (mm)	188.5	S30.8.16	—	145.2	S44.8.9	—	144.0	S37.8.28	—	134.0	S25.7.28	—	130.9	S15.9.6	—	
最大連続雨量 (mm)	392.5	S22.9.13 ～9.15	—	338.9	M43.8.6 ～8.11	—	311.5	S57.9.10 ～9.12	—	262.4	S30.8.6 ～8.7	—	200.4	S25.7.27 ～7.30	—	
最大連続干天日数 (日)	63	S56.12.3 ～57.2.3	1/64	39	S58.11.25 ～59.1.2	1/15	29	S56.1.3 ～56.1.31	1/11	27	S60.12.8 ～61.1.3	1/10	26	S55.10.26 ～55.11.20	1/9	

第2節 土地状況

1. 地形、土壌

(第4表－1－1)

	地 目	田						畑 ・ そ の 他							受益地標高 (m)		
事業名	傾斜区分	1/1000 未満	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 10°	10° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	備 考
農村地域 防災減災 事業	面積(ha)		66.9				66.9	286.1						286.1	202	159	
	比率(%)		100				100	100						100			

[水田土壌]

(第4表－1－2)

項目 土壌統(区)名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表							面 積 (ha)			備 考
	土 壌 断 面							事 業 名			
	色	腐 植	礫 層	土 性			泥 炭 層 黒 泥 層 及びグライ層	農村地 域防災 減災事 業		計	
				表 土	下 層 土						
				一層	二層	三層					
田島（統）	茶褐色	富	あり	粘質	粘質		なし	66.9		66.9	

2. 土地利用の状況

(令和7年8月現在) (第4表-2)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						採 草 放 牧 地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	樹 園 地 (ha)					
農村地域防災 減災事業	桐生市 みどり市 伊勢崎市	66.9	286.1	—	—	—	—	—	—	—	353.0	
合 計		66.9	286.1	—	—	—	—	—	—	—	353.0	

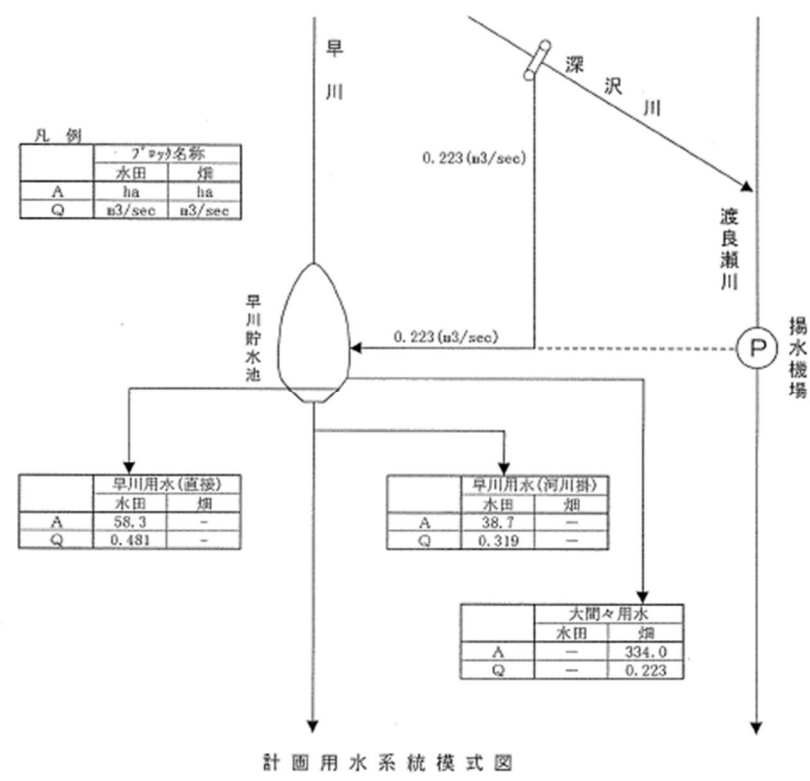
3. 土地所有の状況

※土地改良事業に参加する資格を有する者（土地改良法第3条に規定する資格を有する者）から負担金を徴しないため省略

第3節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水系統



出典：平成13年度 新規採択希望 県営ため池等整備事業（ため池等（一般））事業計画書p15
（※上記は平成13年時点の水利権資料に基づくため、実際の受益面積及び計画流量は異なる。）

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表－1)

事業名	項目	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		50ha以上		50～10ha		10ha未満									
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m3/s	箇所	m3/s	m3/s	
農村地域防災減災事業	貯水池					1	353.0	1	353.0						
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計					1	353.0	1	353.0						
合計						1	353.0	1	353.0						

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表－2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年 又は 更新年	改修を必要 とする理由	備 考
農村地域 防災減災 事業	貯水池	早川貯水池	353.0	アースダム (中心コア型)	堤高26.0m 堤長230.0m	S16年度	非越流部天端高の不足 減勢工長の不足	
合 計		1箇所	353.0					

(3) 用水に関する被害状況 該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

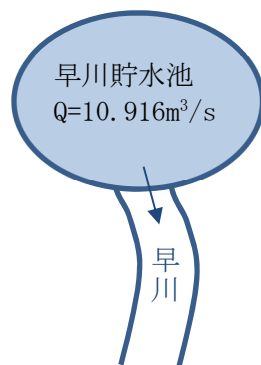
(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計	
農村地域 防災減災 事業	87.3	311.7	0.0	399.0	1,116,537	4,576	1,506,319	565,106	12,091,493	15,284,031	
合 計	87.3	311.7	0.0	399.0	1,116,537	4,576	1,506,319	565,106	12,091,493	15,284,031	

2. 排水状況

地区内の排水は、自然流下により直接早川に排水される。

(1) 排水系統



受益地	
A	353.0ha
Q	73.34 m³/s

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目 施設名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m 3 /s)	現況排水能力 (m 3 /s)	備 考	
			50ha以上		50～10ha		10ha未満							
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha				
農村地域 防災減災 事業	自 然	排水路	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha		73.34m ³ /s		
		水 門					1	353.0	1	353.0				
	機械水門 および 排水機	機械水門												
		排水機												
合 計						1	353.0	1	353.0		73.34			

(イ) 改修を要する施設一覧表 該当なし

(3) 排水に関する被害状況 該当なし

3. 河川状況

早川貯水池及び受益地からの排水先である早川は流下断面が十分に確保されている。

第4節 道路概況

1. 道路概況

受益地内の農道は、整備済みであり、集落内の県道や国道に接続している。

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

※施設の耐震・豪雨対策を実施するもので、当該事業実施前後で営農計画及び土地利用計画に変更がないため省略

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに主副業別農家数

※施設の耐震・豪雨対策を実施するもので、当該事業実施前後で営農計画及び土地利用計画に変更がないため省略

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

※施設の耐震・豪雨対策を実施するもので、当該事業実施前後で営農計画及び土地利用計画に変更がないため省略

4. 主要作物作付状況

(第6表-4)

市 町 村 名		桐生市		みどり市		伊勢崎市		計	平 均	備 考
総 耕 地 面 積(ha)		403		188		1,610		2,201	734	
総 本 地 面 積(ha)		357		174		1,570		2,101	700	
区 分 作物名		作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単 位 面 積 当たり収量 (kg/10a)	
田	水稲	200	490	92	487	859	504	1,151	494	農林 水産省
	小 計	200	499	92	487	859	504	1,151	494	
普通畑	小麦	X	X	X	X	1,120	450	1,120	450	R6 作物統計 Xは公表データなし
	ばれいしょ	X	X	X	X	X	X	X	X	
	さといも	X	X	X	X	X	X	X	X	
	ほうれんそう	X	X	X	X	X	X	X	X	
	なす	X	X	X	X	X	X	X	X	
	小 計	—	—	—	—	1120	450	—	—	
計		—	—	—	—	1120	450	—	—	

5. 農業の動向

(第6表－5)

項目 区分	経営体			土 地			主 要 作 物			その他	地 域 指定等	備 考
	単位：経営体	B	A	単位：ha	B	A	単位：ha	B	A			
変化 の 状 況 C 年 を 100 と す る 指 数	総経営体数	2,752	2,157	耕 地	4,664	4,272	水稲	1,548	1,243			A:令和2年 (農林業セン サス 2020) B:平成27年 (農林業セン サス2015) データは桐生 市とみどり市 と伊勢崎市の 合計
	主業経営体数	1,037	774	田	2,066	2,076	小麦	1,229	1,330			
	準主業 経営体数	299	143	畑	2,536	2,155	ばれいしょ	64	17			
	副業的 経営体数	1,416	1,240	樹園地	61	41	さといも	6	17			
							ほうれんそう	269	317			
							なす	95	104			
変化 の 理 由	農業経営体数は減少傾向にある。			田面積は微増したが、畑と樹園面積の減少に伴い総耕地面積が減少した。			水稲及びばれいしょの作物面積は増加したが、それ以外の作物の作付面積は減少した。					

第6節 地域環境の概況

◆桐生市

本市は、群馬県の東部に位置している。市域北西部から北東部の一帯には、赤城山や群馬県と栃木県にまたがる足尾山地がそびえ、急しゅんな地形を刻んでいる。また南東部には標高約290mの茶臼山を含む、比較的なだらかな地形の八王子丘陵が広がり、南西部の新里町には雷電山が小高い丘のように緩やかに構える。

主に農業振興地域となっている新里町・黒保根町にまとまった農地が広がっている。そのほか、桐生地区では広沢町や相生町・川内町・菱町・梅田町などに農地が点在している。新里町南部では平坦で広い田畑が多く見られるのに対し、新里町の北・中部や黒保根町では尾根や谷など急しゅんな地形的要件もあり、段々畑のような農地が主体となっている。

◆みどり市

本市は群馬県の東部に位置している。市の北部には、足尾山地が連なっており、その山塊に源をもつ渡良瀬川が市の北東から南東にかけて流れ、その清流がつくり出した大間々扇状地が市の中部から南部にかけて広がっている。

自然環境の現状として、本市の地勢をみると大きく二つの地域から成り立っている。一つは渡良瀬川の溪谷沿いに連なる東町と大間々町の北部、もう一つの地域は、大間々町の南部と笠懸町で、この地域は渡良瀬川の扇状地に広がる平坦地から成り立っている。北部地域は、観光資源に恵まれた自然豊かな中山間地域であり、一方、南部地域は、古くからの商店街が形成されている区域と、農地が宅地化し、都市化が進んでいる区域から成り立っている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

早川貯水池は昭和16年に竣工し、その後昭和53年度に洪水吐、底樋及び堤体波返し護岸の改修、平成14～16年度に取水設備及び堤体上流斜面保護の改修が行われ、現在に至っている。令和2年度に実施された豪雨検討において、現行基準に沿って早川貯水池を「ダム」とした場合、最新の降雨データを用いて本業務により設計洪水量を算定した結果 $Q=89.0\text{m}^3/\text{s}$ となり、現況の設計洪水量 $61.3\text{m}^3/\text{s}$ を超過することが判明した。また、現洪水吐での越流水深 $H=0.78\text{m}$ より必要な非越流部天端高を算出すると $\text{EL. } 226.38$ となる。一方、現堤体の非越流天端高が $\text{EL. } 225.86$ であるため、天端高が52 cm不足することが判明した。早川貯水池下流には集落が存在し、被害想定区域内には人家が含まれていることから、本地区において、豪雨時等の安全性確保に係る対策を行う必要がある。

項 目	事業を必要とする理由	改 修 補 強 工 法	備 考
洪水吐工	現洪水吐では、設計洪水量 $89.0\text{m}^3/\text{s}$ が現況の設計洪水量 $61.3\text{m}^3/\text{s}$ を超過しており、越流水深が $H=0.78\text{m}$ となり、必要非越流部天端高が52 cm不足する。また、水理面においても減勢工長が約3m不足するため、安全面の観点から改修を必要とする。	越流部の水路を拡幅（ $B=7.8\text{m}$ ）し、移行部で現況水路幅（ $B=5.5\text{m}$ ）に漸縮させ、現況と同じ縦断線形にする（放流部と減勢工部は既設利用）。	
その他被害歴改修歴ため池依存度等の特記事項	昭和38年：法尻より5m付近に及ぶ全般的な漏水のため、堤体全般にグラウト。 昭和42年：斜樋に2取水口を造設。 昭和53年：洪水吐、底樋及び堤体波返し護岸の改修。 平成16年：取水設備及び堤体上流斜面保護の改修。		
他 事 業 関 連	大間々用水土地改良区（畑地かんがい）の調整池として利用		

2. 事業別面積

(第7表)

事業名 土地利用区分 事業目的	農村地域防災減災事業						計 (ha)	備考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)		小 計 (ha)		
ため池の耐震・豪雨対策	66.9	286.1				353.0	353.0	
計	66.9	286.1				353.0	353.0	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本地区の受益地353haの内、66.9haは水田であり、水稻を栽培している。286.1haは普通畑であり、なすやほうれんそう、いも類等を栽培している。事業後も地域の中心経営体等が営農する計画である。

2. 土地利用区分

(第8表－1)

事業名	土地利用区分 区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶 園 (ha)	その他の 樹園地(ha)	小 計 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
農村地域 防災減災 事業	現況・計画	66.9	286.1	—	—	—	—	353.0	—	—	—	353.0	

3. 作付方式

(第8表－2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1 年 目												2 年 目												3 年 目												備 考	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
農村地域防災 減災事業	現況・ 計画	水稻	水田						田 植 え			稲 刈 り							田 植 え			稲 刈 り									田 植 え			稲 刈 り							
		小麦	普通 畑											播 種						収 穫						播 種					収 穫							播 種			
		ばれ いし ょ	普通 畑			定 植			収 穫									定 植			収 穫									定 植			収 穫								
		さといも	普通 畑				定 植						収 穫						定 植						収 穫						定 植							収 穫			
		ほう れん そう	普通 畑			播 種		収 穫										播 種		収 穫										播 種		収 穫									
		なす	普通 畑			播 種	接 ぎ 木		定 植		収 穫							播 種	接 ぎ 木		定 植		収 穫								播 種	接 ぎ 木		定 植		収 穫					

4. 生産計画

(第8表-3)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作 付 面 積 (ha)			作 付 率 (%)		単位面積当たり 収量 (kg/10a)			R6生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備 考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 当たり収量 増 加	
農村地 域防災 減災事 業	水 田	表 作	水稲	147.4	147.4	—	87.8	87.8	496	496	—	5,758			—	—	Xは公表デー タなし
			ほうれんそう	7.9	7.9	—	4.7	4.7	1,105	1,105	—	X					
			なす	11.9	11.9	—	7.1	7.1	5,354	5,354	—	28,100					
			飼料用米	10.0	10.0	—	6.0	6.0	2,800	2,800	—	X					
		裏 作	小麦	23.1	23.1	—	13.8	13.8	436	436	—	5,040					
			ばれいしょ	0.4	0.4	—	0.2	0.2	1,997	1,997	—	X					
			ほうれんそう	33.2	33.2	—	19.8	19.8	1,105	1,105	—	X					
			なす	3.5	3.5	—	2.1	2.1	5,354	5,354	—	28,100					
	普 通 畑	表作	さといも	4.5	4.5	—	3.5	3.5	1,188	1,188	—	X					
			ほうれんそう	48.6	48.6	—	38.0	38.0	1,105	1,105	—	X					
			なす	74.7	74.7	—	58.5	58.5	5,354	5,354	—	28,100					
		裏作	ばれいしょ	2.7	2.7	—	2.1	2.1	1,997	1,997	—	X					
			ほうれんそう	191.7	191.7	—	150.0	150.0	1,105	1,105	—	X					
			なす	23.4	23.4	—	18.3	18.3	5,354	5,354	—	28,100					
合 計				583.0	583.0	—	411.9	411.9					—	—	—		

単位面積当たり収量 (kg/10a) は、経済効果より

第3節 用水計画

本地区における単位用水量は、平成13年群馬県営早川貯水池土地改良事業計画書の用水量を参考に算定した。

1. 計画基準年
1/10基準年により、昭和35年を計画基準年とする。

2. 計画かんがい方式
湛水かんがい方式

3. 計画用水系統
現況用水系統と同じ

4. 計画用水量

代掻期取水量	34.0 (m3/s)
普通期取水量	150.0 (m3/s)
代掻き日数	

(1) かんがい用水

(第9表－1)

項目 系統名	種別	面積(ha)					消費 水量 (m3/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備 考
		事業名							普通期	代かき期	
		農村地域 防災減災 事業	計	計単 画位 平均水 量 (m3/s)	計単 画位 代用 か水 き量 (m3/s)	(m3/s)			(m3/s)		
早川 貯水池		353.0	353.0	150.0	34.0	353.0		25			
計		353.0	353.0	150.0	34.0	353.0					

5. 水源計画

(1) 水利用計画

施設の耐震・豪雨対策を実施するもので、当該事業実施前後で水利用計画に変更がないため省略。

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

(第9表－3)

項 目 貯水池名	流域面積 (km 2)		かんが い 面 積 (ha)			純 貯 水 量 (千m 3)	利用貯水量 (千m 3)	利 用 回 数 (回)	最大取水量 (m 3 /s)	備 考
			事 業 名							
	直 接	間 接	農村地域防災 減災事業		計					
早川貯水池	3. 15		353. 0		353	335	770	2	0. 80	

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

洪水吐 1/200年確率雨量（既往最大雨量：前橋）

2. 計画排水方式

（1）外水位等の決定 現況の満水位を基準とする。

（2）計画緒元の決定

①現地調査及び地形図により、平均流出率を0.75とする。

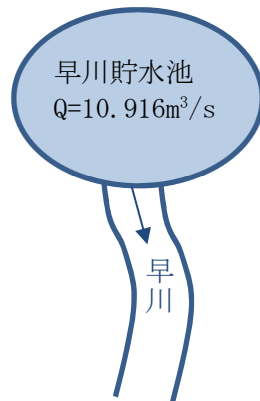
②排水量は、ため池の貯留効果を考慮しない。

（3）計画排水方式の決定

側水路型

3. 計画排水系統

（1）排水系統



受益地	
A	353.0ha
Q	73.34m³/s

第5節 道路計画 該当なし

第6節 洪水調節計画

200年確率雨量により、集水域からの流入水及び早川貯水池への降雨量を算定し、貯留効果を考慮せず、洪水吐から排水する計画とする。

第7節 農用地整備計画 該当なし

第8節 老朽ため池改修計画

早川貯水池の洪水吐において、設計洪水量 $89.0\text{m}^3/\text{s}$ の場合、越流水深が $H=0.78\text{m}$ となり、必要非越流部天端高が 52cm 不足する。また、水理面においても減勢工長が約 3m 不足するため、安全面の観点から改修を必要とする。

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量 200年確率雨量

(2) 計画洪水量

箇所名		早川貯水池	
集水面積	直接	3.15km^2	合計
	間接		3.15km^2
計画 洪水量	計算式	$Q_{200}=1/3.6 \times f_p \times r \times A$	
	流出率	$f_p=0.8$	
	計画洪水量	$Q_{200}=74.17\text{m}^3/\text{s}$	
	$Q_{200} \times 1.2$	$Q=6.10 \times 1.2=89.00\text{m}^3/\text{s}$	

(3) 改修計画

計画洪水量を安全に排水できる断面に改修し、堤体の必要な余裕高を確保する。

側水路型洪水吐工 現場打ち鉄筋コンクリート水路

2. 堤体補強計画

該当なし

3. 取水施設改修計画

該当なし

4. 洪水吐施設改修計画

越流部の水路を拡幅し、移行部で現況水路幅に漸縮させ、現況と同じ縦断線形にする（放流部と減勢工部は既設利用）。

水路幅（越流部）：B=7.8m 移行部：B=5.5m

第 5 章 主要工事計画

第 1 節	用水施設	該当なし
第 2 節	排水施設	該当なし
第 3 節	道路及び索道	該当なし
第 4 節	洪水調節施設	該当なし
第 5 節	農用地整備施設	該当なし

第 6 節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第 15 表)

名 称		早川貯水池			位 置	群馬県桐生市、みどり市		
堤 体	型 式	流 域 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m ³)	堤 頂 幅 (m)	貯 水 量 (千m ³)	備 考
	中心コア型	3.15	26.0	230.0	294,000	7.0	720.0	
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m ³ /s)	規 模 (m)		取 水 施 設	型 式	取 水 量 (m ³ /s)	
	側水路型	89.0	B=59.34 H=5.1			鋼管	0.80	

2. 堤体補強施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着 手	令和8年度
完 了	令和11年度

第8章 環境との調和への配慮

1 環境との調和への配慮の方針

◆桐生市

本市において「桐生市第6次総合計画」が策定されており、本田園環境整備マスタープラン策定にあたっては、上位計画や関連計画で示された内容など、各種計画との整合のとれた計画となるよう配慮するものとする。環境創造区域では生態系、景観に配慮した整備を実施し、環境配慮地域では施工時に希少動植物の移動などを実施する。

◆みどり市

農地については、農業振興地域における優良農地の確保に努める。一方、都市住民を対象にした貸し農園事業の展開や農業体験事業の実施、あるいは景観作物の栽培など、遊休農地を多面的に活用しその保全に努めることが必要である。保全活動を十分に実施するために必要な人材を確保し、環境保全に対する活発な啓発活動を展開するとともに、環境保全に興味のある都市住民等がボランティアとして環境保全活動に参画する契機となる事業に積極的に取り組むことも必要である。

2 環境との調和への配慮に伴う配慮内容

工事の実施にあたっては、保全対象生物の保護の為、工事用道路や施工ヤード等の位置を確認地点から可能な限り離すとともに、間違っても立ち入ることが無いように確認地点にマーキングを行う等により、工事による生息環境の変化を回避・低減させる。

第 9 章 換地計画の概要

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

(第 1 6 表)

区分 \ 箇所	早川貯水池 (千円)	合計 (千円)	備 考
主要工事	499, 000	499, 000	令和7年度単価
附帯工事			
計	499, 000	499, 000	

第11章 効 用

(第 1 7 表)

総費用 (千円)	954, 728	年償還額 (千円)	0	効果区分	年総効果額	年総増加農業所得額	
					(千円)	(千円)	内機能向上
総便益額 (千円)	15, 847, 487	内機能向上分 (千円)	0	災害防止効果	771, 843		
総費用総便益比	16. 59	総所得償還率 (%)	—	維持管理費節減効果	Δ 642		
現況年総農業所得額 (千円)	1, 584, 186	増加所得償還率 (%)	—	計	771, 201	—	—

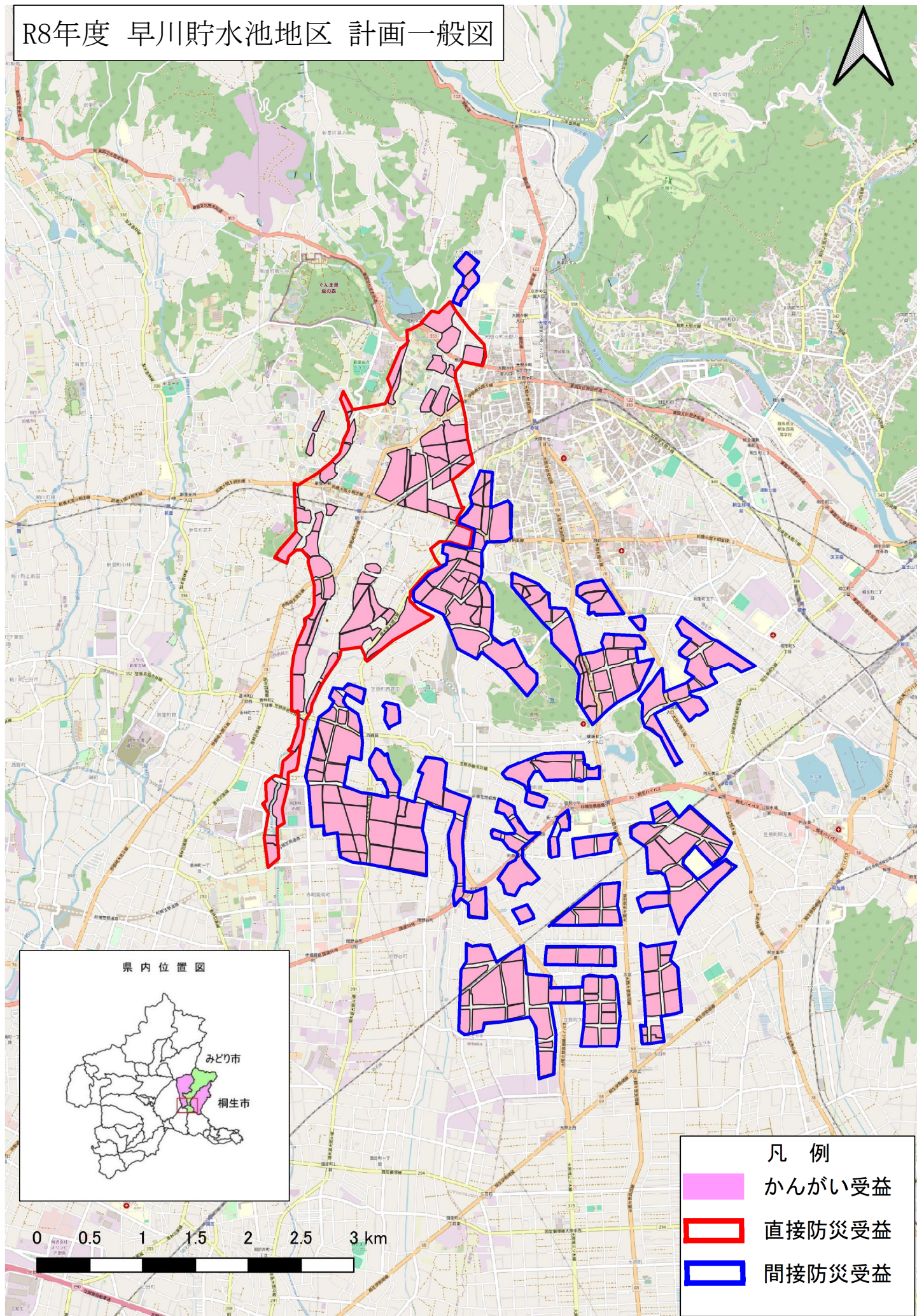
第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画図面

- | | |
|----------------|----|
| 1 計画一般図 | 別添 |
| 2 計画概要図（計画平面図） | 別添 |
| 3 洪水吐縦断図 | 別添 |
| 4 洪水吐改修構造図 | 別添 |

R8年度 早川貯水池地区 計画一般図



S=1:500

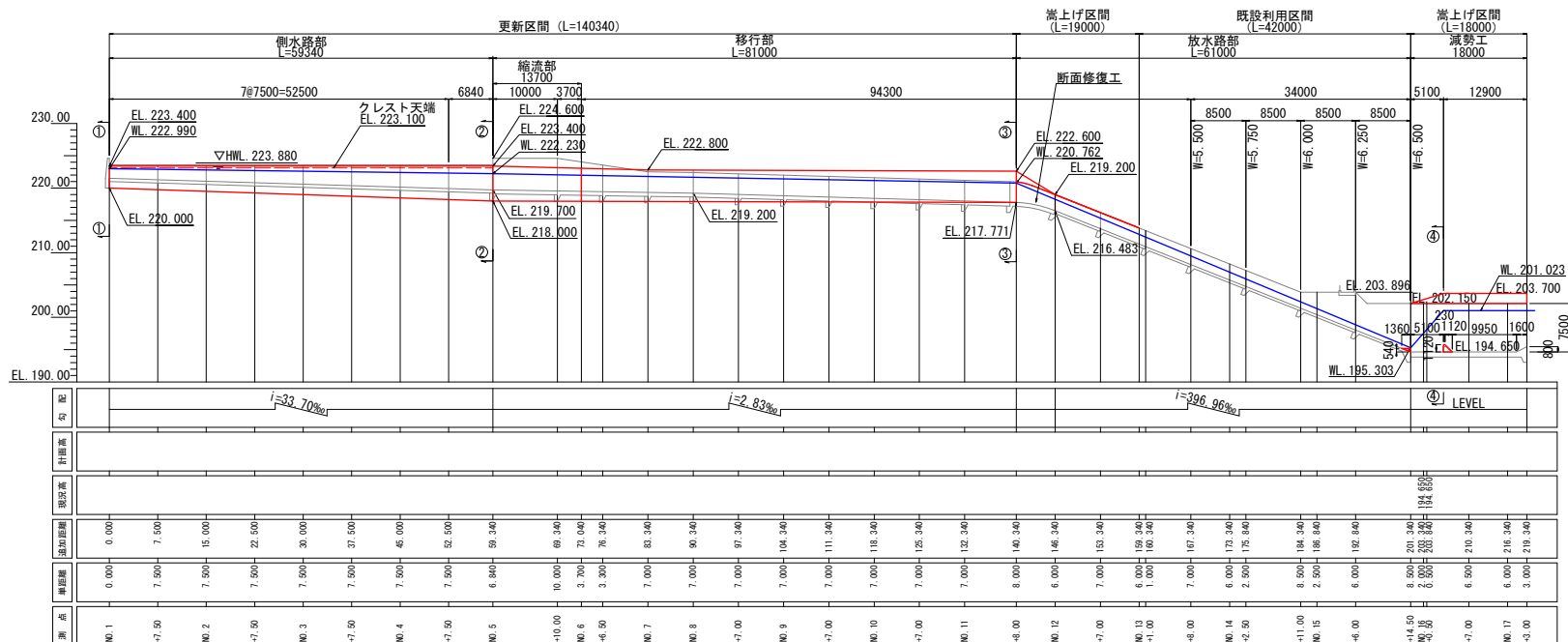
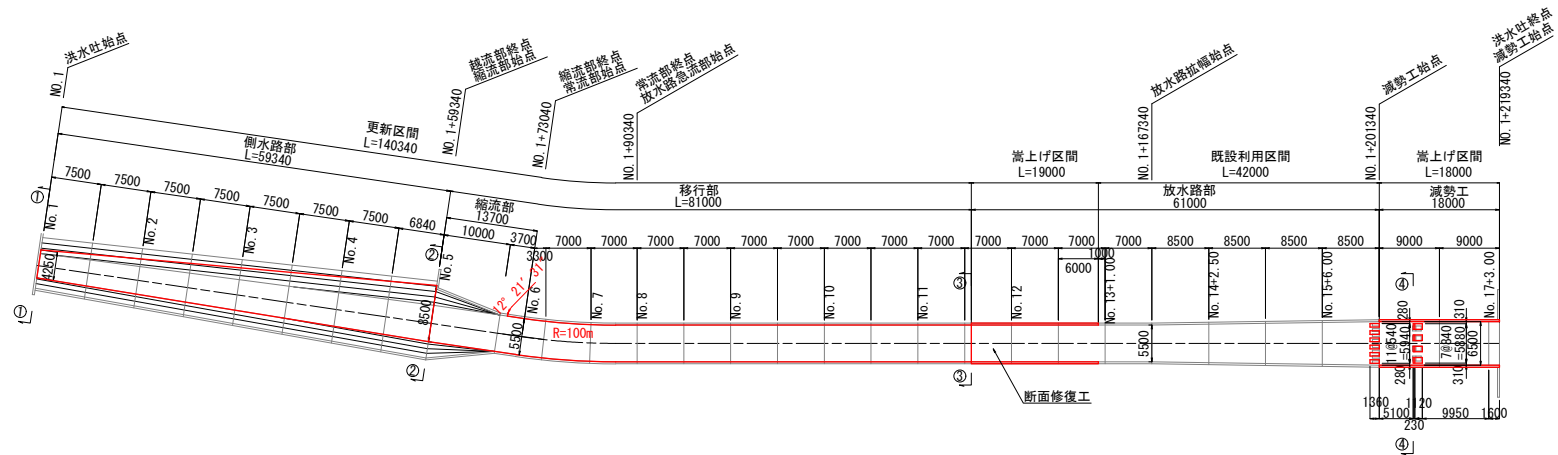
S=1:500



施工年度	R6	図面番号	1
図面の名称	一般計画画面図 S=1:500		
事業名	熊志東葉農村整備調査計画 早川野々池地区 調査計画業務委託		
工事名			
工事場所	親生市新屋町新川、 みどり市大田々町御原地先		
区分			
設計	審査		

S=1 : 400

縦断図



施 工 年 度	R6	図面番号	2
図面の名称	水路縦断図 S-1/400		
事 業 名	常設農業農村整備調査計画 早川の水田地 調査計画業務委託		
工 事 名			
工 事 場 所	横浜市新里町新川、 みどり市大岡町町根原地先		
区 分			
設 計	審 査		

S=1 : 100

施 工 年 度	R6	図面番号	3
図面の名称	早川貯水池 洪水吐改修補造図 S=100		
事 実 名	県農業農村整備調査計画 早川貯水池地区 調査計画策定委託		
工 事 名			
工 事 場 所	横浜市新町町新川、 みどり市大田町町根原地先		
区 分			
設 計	審 査		